

## 2008年度生体医工学シンポジウム論文執筆の手引き

### 2008年度生体医工学シンポジウム 特集編集委員会

#### 1. 目的

生体医工学シンポジウムの大きな目的の1つに、若手研究者の積極的な論文投稿をプロモートし、また論文執筆を支援することがあります。この主旨にのっとり、査読の立場から論文執筆の手引きをまとめました。論文作成に際しては、この執筆の手引きを有効に利用し、完成度の高い論文に仕上げてください。

なお、博士の学位取得の要件の1つとして投稿をお考えの場合は、投稿時点で、必ず申込書の該当箇所にチェックを入れるのを忘れないようにしてください。12月の学位申請に間に合うように、査読プロセスを終了します。

#### 2. 論文査読の基本的な考え方

まず、論文作成をする際に最も重要な2点を示します。

第1に、生体医工学は医学と工学の学際領域に位置する学問です。従って、

- |   |
|---|
| 1) 生体医工学会論文誌の読者は医系から工系まで幅が広い。論文はこれらの幅広い読者を対象としたものでなければならない。 |
|---|

こととなります。但し、記載言語は和文、英文に限られることに注意してください。

また第2に、論文はそれで完結するものではなく、長い医工学研究の歴史の一部を形成するものとなります。従って、貴君の論文を読んだ研究者が、それを参考に更に新たな研究につなげることになる訳ですから、

- |                         |
|-------------------------|
| 2) 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。 |
|-------------------------|

こととなります。貴君の論文が公表されると、長期間にわたって多数の研究者の目に触れることになります。正確で合理的な内容の記述に特に心掛けてください。

#### 3. 論文の種類

学会誌掲載の論文には大きく「研究」、「速報」、「資料」の3種類があり、各々。下記のように論文掲載の目的、備えるべき条件が異なっています。もちろん、このいずれの論文の種類にも投稿することができます。

- |  |
|--|
| 1) <b>研究</b> (刷り上がり6ページ)<br>新しい研究成果を発表するもので、研究論文としての形式が整っているもの。  |
| 2) <b>研究速報</b> (刷り上がり4ページ)<br>新しい研究成果を発表するもので、新しい考え方の提案、新しい実験事項など、前項の「研究」とするほどまとまった形ではないが、これだけでも早く発表する価値があると考えられるもの。 |
| 3) <b>資料</b> (刷り上がり2ページ)<br>機器、部品などの試験報告や設計資料などで、発表することが読者に役立つと考えられるもの。  |

研究の進捗状況に合わせて、最も適した種類を選択してください。

#### 4. 査読のプロセス

投稿された各々の論文に対して、原則、査読の総合判定の責任を持つ1名のコ・エディタが付き、実際に査読する査読者が2名付きます。

まず、各々の査読者が査読基準に従って下記の各項目の判定ならびに総合判定をします。その結果を受けて、コ・エディタは掲載／条件付掲載／照会後判定／返却のいずれかを決定し、編集委員会に報告します。編集委員会では、査読者の意見、コ・エディタの判定結果を受けて、最終的に、掲載／返却の判定を行い、査読者などの意見を添えて論文執筆者である皆さんに結果をお伝えします。また、査読者の意見が大きく分かれた場合には、第3の査読者に査読を依頼する場合があります。

このように、3段階の査読プロセスを設けているのは、合理的で公正な査読を保証するためです。「返却」と判定された場合にも、査読者の意見を参考に、論文の書き方を見直す、研究内容を見直す、実験を追加するなどして、是非、再度チャレンジしてください。

#### 4. 論文が備えるべき要件

では、具体的にどのような点について査読がなされるのかを説明します。編集委員会は、2人の査読者に対して、下記の判定基準に従った項目別判定を求めています。

##### 判定基準

- 内容が医学および工学の一方に偏りすぎないこと。
- 内容が「生体医工学」の発展に役立つものであること。
- 主な内容が公知、既発表でないこと。
- 医学・工学両分野の会員に理解できるように、わかりやすく簡潔に記述してあること。
- 論旨が通っており、前提・結論がはっきりしていること。

##### 項目別判定

- |             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 1) 題名       | (適切／部分訂正要／全面的不适当)           |
| 2) 本誌への適合性  | (適切／普通／ものたりない／不适当)          |
| 3) 論文の価値    | (高い／普通／ものたりない／無し)           |
| 4) 論文の新規性   | (高い／普通／ものたりない／無し)           |
| 5) 記述の内容    | (必要・十分／不十分／過多／論旨不明)         |
| 6) 表現の仕方    | (平易・簡素／普通／難解／冗長／著しく冗長／理解不能) |
| 7) 論文の推敲    | (適切／普通／ものたりない／未完成)          |
| 8) 学術用語の使い方 | (適切／多少誤用あり／著しく誤用あり)         |
| 9) 図・表      | (适当／過多／不備)                  |
| 10) 論文の種類   | (适当／不适当)                    |

また、項目別判定に引き続いては、1)掲載、2) 照会後掲載(再査読不要)、3) 照会後判定、4) 返却、のいずれかの総合判定を求めます。それぞれの詳細は下記の通りです。

##### 1. 掲載

完全な論文または文章上の語句修正などに限るごく僅かな間違いのみであり、電話等により筆者に訂正確認を得るだけの論文。上記以外の場合にはすべて2. 以下と判定する。[論文投稿の日付は本投稿日をもってする。]

##### 2. 照会後掲載

文面により照会する必要があると思われる論文のうち、照会事項の内容が論文の真偽に影響せず、部分的事項の照会にとどまる論文。したがって該当論文の著者回答に対し論文担当委員だけで確認および判定が行えるものでなければならない。照会事項に対する回答が不十分であったり、反論がある場合には再度著者に照会した後掲載を決定する。照会後掲載とする場合には

あくまで掲載であり、掲載の判定に危惧がもたれる論文に関しては 3. 以下と判定する。[論文投稿の日付は第 1 回目の照会に対する回答の日付をもって再投稿日とする。]

### 3. 照会后判定

照会事項の内容が論文の重要な部分であったり、きわめて多数にのぼる論文。この場合には、著者回答をまず論文担当委員が確認し、必要ならば再査読を要請(ただし再査読は1回限りとする)して再査読後に改めて再照会を行う。なお、論文担当委員が再査読不要と判断した論文でも再照会は必要と考えた場合には再度照会を行う。[論文投稿日付は、再査読不要ならば第 1 回目の照会に対する回答の日付をもって再投稿日とし、再査読を行った場合には第 2 回目の照会回答日をもってする]

### 4. 返却

「研究速報」あるいは「資料」への変更を要請する論文。または「生体医工学」の掲載に不相当と判断した論文。

更に、2)照会后掲載、3)照会后判定、4)返却については下記の選択肢から理由を選択することを求めています。

#### ・照会后掲載・照会后判定とした理由

- 1 主要部分以外の内容について部分的に明らかな誤りがある
- 2 主要部分以外の説明に不備がある
- 3 文字や図、数式などに部分的な誤りがある
- 4 文章が部分的に冗長
- 5 文献の引用やその考察が不十分である
- 6 やや推敲不足
- 7 その他

#### ・返却とした理由

- 1 論文の種類の変更  
1)研究 2)研究速報 3)資料 へ
- 2 「生体医工学」に不適  
他誌「 」を薦める
- 3 役に立たない
- 4 新規性が認められない。
- 5 主要部分に明らかな誤りや矛盾がある
- 6 論旨が不明分である
- 7 記述が難解で内容が理解し難い
- 8 不必要に冗長であり、現在の(1/3、1/2、3/4)くらいでまとまる
- 9 明らかな推敲不足
- 10 その他

上記の判定の加えて、査読者には編集委員会に対する意見(著者にはフィードバックされません)、並びに著者に対する査読意見(フィードバックされます)を求めています。

### 5. 論文執筆上の注意点

最後に、査読でよく指摘される注意点示しますので、論文執筆の参考にしてください。

1. 被験者, 実験動物等に対する生命倫理の遵守に関する記述がない.
2. 英文アブストラクトの不備.
3. 「て」, 「に」, 「お」, 「は」の使い方. 句読点の使い方, 段落の区切り方, などの文法の不備.